

## 「有機農業研究者会議 2020」開催要領

「有機農業研究者会議 2020」実行委員会

### 趣 旨

有機農業推進法を受けて、国、地方自治体をはじめ有機農業推進へのさまざまな技術開発の取り組みがなされていますが、その情報交流の場が少ないのが現状です。そこで、国、地方自治体、大学および民間の研究者など有機農業の試験研究に従事または関心のある方々同士や有機農業実践者との情報交流を行える場として、「有機農業研究者会議 2020」を開催します。

今回は、新型コロナウイルスの感染症の拡大を考慮し、オンライン方式で開催します。また、オンラインの特徴を生かし、都道府県、関係法人などにパブリックビューイング形式の参加を呼びかけ、全国各地で参加できるようにします。

開催内容は、第 1 部では農地の生物間相互作用を中心とした基調講演と実施者の事例発表を、第 2 部では農研機構などから新しい土づくり技術に関する研究成果を紹介いたします。なお、ポスターセッションおよび情報交換会は実施しません。

日 時	令和 2 年 11 月 18 日（水）13 時から 18 時 10 分まで
会 場	有機農業参入促進協議会事務局を主会場としたオンラインセミナー
主 催	「有機農業研究者会議 2020」実行委員会
共 催	（国研）農研機構・中央農業研究センター、日本有機農業学会、NPO 法人有機農業参入促進協議会
協 力	オーガニックフォーラムジャパン
後 援	農林水産省（予定）
参集範囲	国立研究開発法人・地方自治体・大学および民間の有機農業の試験研究者、有機農業実践者、普及員・行政担当者、JA など農業関連団体関係者
参加費	2,000 円、ただし、印刷した資料を必要とする方は 3,000 円（pdf ファイルは、参加者全員に配布） パブリックビューイング会場：10,000 円
主な内容	オンラインでの開催ですが、研究事例報告および有機農業実践者の事例報告、話題提供をもとに、講師、参加者間で意見交換ができるようにします。
参加申込	申込用紙に必要事項を記入の上、E-mail または FAX にて下記までお申し込みください。 「有機農業研究者会議 2020」実行委員会事務局 担当：藤田正雄（NPO 法人有機農業参入促進協議会 事務局長） 〒101-0021 東京都千代田区外神田 6-5-12 偕楽ビル（新末広）3 階 株式会社マルタ内 TEL：050-5362-1815 FAX：050-3457-8516 E-mail:office@yuki-hajimeru.net

## 日 程

11月18日(水)

受付		(12:45~13:00)
開会あいさつ		(13:00~13:15)
	白川 隆 (国研) 農研機構中央農業研究センター) 鶴田 志郎 (NPO 法人有機農業参入促進協議会) 未 定 (農林水産省農林水産技術会議事務局)	
第1部 農地の生物間相互作用に関する研究成果と農家事例		(13:15~16:00)
座長	佐伯 昌彦 (株式会社マルタ)	
基調講演	「作物-土壌-微生物の相互作用からなる農業環境エンジニアリングシステムについて」 二瓶 直登 (福島大学農学群食農学類) (休憩)	(13:55~14:05)
事例発表	「熊本県における有機イチゴを栽培」伊藤将宏 (熊本県) 「山梨県における有機野菜栽培」岸根正明 (山梨県) 「技術開発と政策と現場を有機的につなぐ」 谷口 吉光 (秋田県立大学地域連携・研究推進センター)	
	質疑応答	(15:20~15:45)
	(休憩)	(15:45~16:00)
第2部 「有機農業に活用できる堆肥・緑肥の利用法と効果~新しい土づくり技術の紹介~」		(16:00~18:10)
座長	大脇 良成 (農研機構中央農業研究センター)	
話題提供者	「堆肥がもつ土づくり効果と肥料効果の利用」(仮題) 井原 啓貴 (農研機構九州沖縄農業研究センター) 「堆肥がもつ土壌病害と線虫害の抑制効果の利用」(仮題) 豊田 剛己 (東京農工大学大学院生物システム応用科学府) (休憩)	(17:00~17:10)
	「緑肥がもつ土づくり効果と肥料効果の利用」(仮題) 唐澤 敏彦 (農研機構中央農業研究センター) 「緑肥がもつ線虫害の抑制効果の利用」(仮題) 富田 祐太郎 (カネコ種苗くにさだ育種農場)	
閉会あいさつ	谷口 吉光 (日本有機農業学会)	(18:00~18:10)

以 上

※演題の一部は仮題です。講師など内容は変更になる場合があります(文中敬称略)。